



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第一五六号）

ぼうしゅ
芒種

六月五日

おかげ犬

近頃、おかげ横丁で人気があるのは「おかげ犬」。病気の主に替わって、伊勢参りをしたことから、この名前があります。おかげ横丁に犬みくじがお目見えしたのが五年前。それから徐々に人気が出て、今ではさまざまな商品が揃い、三〇種類を数えるようになりました。

「江戸時代、様々な人が書いた参宮記を読み、犬について調べました。図書館に三日間ぐらい籠りましたね。するといくつか記述がありまして、白い犬が多かったこと、首輪に類するものをつけていたこと、お金をぶら下げていること、伊勢参りをする犬であるという何かしらの印をつけていたことなどがわかりました。そこから現代の人々にもわかるように工夫しました」と商品開発に関わった幸田文木さんが話してくれました。白い犬の首にはしめ縄を巻き、お金の入った赤い巾着袋を下げ、「おかげまいり」と書かれた青い旗を身につけた犬は、こうしてできたのです。

おかげ犬の商品が置いてあるのは、おみやげや。入口に大きなおかげ犬が座る棚には、犬みくじがずらりと並んでいます。犬の顔がやや上向きなのは、内宮の宇治橋前に座って大鳥居を見上げているところを表しています。目的の伊勢神宮に着いて、宇治橋の大鳥居を感動して眺めている顔なのです。

そして、店の中ほどには、全国各地で作られている犬の置物などの郷土玩具や作家の作品も並べられています。全国の様々な種類の犬がお伊勢参りに来ているようです。

また、おかげ犬の話は木綿の手拭てぬぐいが絵本になっている手拭い本「犬のおかげまいり」にも記されています。このおかげ犬の話は、江戸の昔も伊勢参りの人々の口を介して伝わりましたし、ウェブ時代の今もブログなどに書かれ、伝わっています。いい話を聞くと人は誰かしらに伝えたくなるのは、昔も今も同じようです。

文 千種清美

